

a 学校教育目標	将来をたくましく切り拓いていく力を身につけた生徒の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 社会のために役立つ志を抱く生徒の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 信頼される学校 (保護者「通わせて良かった」、生徒「ここで学んで良かった」、地域「母校として誇れる学校」)
----------	-----------------------------	----------------------	---

評価計画					自己評価					改善方針	学校関係者評価			
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価			m コメント
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力	主体的に学ぶ生徒の育成	授業改善の推進	①「授業で表現活動を多く取り入れている」と回答する生徒の割合【R4-75%】	80%	86%	87%	109%	A	思考の視点を明確に持たせるためのルーブリック設定や、ペア・班・全体での発表など教科ごとに表現の場面設定が行われている。ICTについては他より肯定的評価が低いと、より効果的な使い方を模索する必要がある。	明確な根拠をもって表現できるよう、各授業で、資料の読み取りなどの活動を行う。調べ学習や資料作成のほかに、教科ごとに思考ツールの活用を充実させたり、個別の復習に用いる等、ICTの使い方の幅を広げる。	5			・教え合いでは大いに学習効果があると感じました。 ・「教える」「理解する」で相互に向上できれば大きな成果となるだろう。 ・学力格差が浮き彫りになっていますが、進路保障をお願いします。
		基礎学力の向上	②「実力テスト等で全国平均を上回る生徒の割合。【R4-50%】	70%	48%	49%	70%	C	3年生は、5教科で37名から44名に増えた。全国平均を割った生徒の半数以上が-10P以上離れている。	学力調査に向けて、家庭学習とのつながりを持たせる。課題の大きい生徒への補充学習の体制を整える。	4	1		・3年生の頑張りが見られた。 ・「わかった」「できた」を実感できる授業を。
豊かな心	自他を認め合い、共に高まる生徒の育成	発達支持的生徒指導の推進 社会人としての自覚の醸成	自己肯定感・自己有用感に関する質問において肯定的評価の割合【新規】	90%	79%	83%	92%	B	生徒会が中心になり、自主的・主体的な活動が定着している。行事や道徳・学活・総合での体験的な活動、生徒同士の肯定的な相互評価が行っていること等が要因にあげられる。	ここ5～6年は数値が向上または高い位置(以前は6割程度)にある。現在の取組を継続させていく。またQUのデータともリンクさせ、SCとの連携を行い、生徒の個別面談等の場面を増やす。	5			・QUの結果も参考にしながらきめ細かな対応をお願いします。 ・多感な時期にスムーズに学校行事が消化できたことは評価に値する。
			「主体的にボランティア活動に取り組んでいる」と回答する生徒の割合【R4-78%】	80%	63%	73%	92%	B	コロナによる生活制限が緩和したこともあり、献血ボランティアを始めとする活動が十分に実施できた。また小中合同での地域清掃でも積極的な活動ができ、リーダーとしての意識も向上できた。	生徒会を中心に活動が定着している。様々な角度から肯定的評価を返し、情報発信を行いながら活動の充実・向上をさせていきたい。	5			・ボランティア活動も積極的に、校内の美化活動も優秀であると思う。
健やかな体	自らの健康を自ら管理できる生徒の育成	体力・運動能力の向上、食育の推進、健康的な生活習慣の確立	①平日睡眠7時間以上の生徒の割合【R4-81%】	85%	81%	87%	102%	A	保健日よりや金のルールチャレンジウィークを通して自ら健康について考え行動できるように取り組んでいる。深夜1時に降に就寝している生徒もおり、生活習慣と自分の体調を意識させる必要がある。	学校だけの取り組みにならないように、保護者の協力を得られるよう、おたよりや懇談の際などに積極的に情報発信をしていくと共に、金のルールチャレンジウィークなどの取り組みの際には、保護者の方にも取り組みがみえるような仕組みをつくる。	4	1		・生活習慣にかかわる部分は家庭の教育力にゆだねられる部分が大変大きい。緊密な連携が必要である。 ・今後も小中連携としての取組を引き続き継続してまいります。
信頼される学校	教職員の職務遂行意欲の向上	時間外勤務時間の縮減	①生徒の完全下校後、2時間10分以内に退校する職員の割合【R4-91%】	95%	89%	83%	87%	B	中間報告より達成値が下がった。全体的には職員の退校時刻は早くなっている。完全下校が早くなっても、職員の退校時間が早くないケースもあった。	①部活動を勤務時間内に収める。②定時退校の徹底③日課表の見直し④週28時間授業の実施を通じ、子供と向き合う時間の確保と勤務時間外在校時間の縮減を図る。	4		1	・「子供と向き合う時間の確保」これが重要な職務だと思います。 ・健康と残業の管理には気を付けて欲しい。 ・業務の効率化に向け、授業時間の見直しも一つと思います。

【j: 自己評価 評価】

A: 100 ≤ (目標達成) B: 80 ≤ (ほぼ達成) < 100  
C: 60 ≤ (もう少し) < 80 D: (できていない) < 60

【l: 学校関係者評価 評価】

イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正でない。  
ハ: 分からない。